

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570101586
法人名	有限会社 桂花
事業所名	グループホームきらら
所在地	宮崎市大字赤江830番地1 (電話) 0985(50)5772
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 4 月 22 日

【情報提供票より】(21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 2 月 16 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	30人	常勤 13 人, 非常勤 17 人, 常勤換算 18 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階 ~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	☑有(108,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☑無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400 円		

(4) 利用者の概要(3月1 日現在)

利用者人数	27 名	男性 9 名	女性 18 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	6 名
要介護5	7 名	要支援2	名
年齢	平均 79.7 歳	最低 61 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	阿波岐ヶ原病院 ・ アート歯科マツダ
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは宮崎市郊外の交通利便性の高い場所にあり、企業や工業の団地が拓かれ、畑や田園と民家とが点在している。ホームは母体のクリニックを併設し、医療との連携体制があり安心感がある。利用者はのんびりと過ごされている。管理者、職員がホームの理念を踏まえて一人ひとりに笑顔で向き合おうとしており、その人に合わせた柔軟な支援をしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘のあった危険物保管場所の有効活用、馴染みの職員による支援について改善に向けた取り組みがなされている。また、家族会開催については、職員全体で協議し、改善に向け検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を全職員が認識し、外部評価をサービスの質の向上の機会と受け止め、職員がそれぞれ自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3か月に1回開催し、自治会長、家族、地域の住民、包括支援センターや職員が参加して評価への取り組みや災害時の対応などについて話し合いを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に家族が出席し、質問や意見、不満等を気軽に言える雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や地域交流センター主催のまつりへの参加や中学生の体験学習、看護学生実習の受け入れ、また、ボランティア受け入れなど地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域でその人らしく暮らし続けるために、「いつも笑顔でやさしい声かけ」「常に向かい合い、その人に合わせた心配り」「共に楽しみ喜び合う雰囲気づくり」「地域と関わり、お互いに支援・援助する気持ち」等の項目をあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念について、笑顔でやさしい声かけ、態度、利用者本位のケアなど具体的に話し、日々の実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や地域交流センター主催のまつりへの参加、中学生の体験学習や看護学校生実習の受け入れなど地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて職員で話し合い、管理者、職員が理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3か月に1回、地域自治会、家族、地域の住民、包括支援センターや職員が参加して、評価への取り組みや災害時の対応等について話し合いを行いサービスの質の向上に活かしている。		運営推進会議は、2か月に1回、定期的開催してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部研修会への参加、事故報告、介護相談員受け入れなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態、金銭管理について細かに伝え、必要に応じて電話でも報告している。ホーム便りや写真等を家族に送付している。		家族の来訪時などに金銭出納帳を見てもらい、家族の確認のサインを受けるとより確かなものになるのではないだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見や苦情の言いやすい雰囲気をつくるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や離職を最小限におさえる努力をしている。各ユニットの管理者、職員を固定し、なじみの関係が保たれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は施設内外の研修に積極的に参加させている。研修内容については職員会議で報告し全職員が共有できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員が同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が面会したり、本人が来訪されたり、本人が徐々になじめるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	庭の手入れ、ボランティアとの踊りやカラオケで披露するなど職員と一緒に楽しみながら、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の言動を細かく観察し、想いや暮らし方の希望や意向などの把握に努めている。また、家族を交えての話し合いも行っている。		センター方式の活用など、生活歴や暮らし方を把握して、一人ひとりの思いの理解を深める工夫をしてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き、関係者の意見を含め全職員で話し合い、本人本位の介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族、関係者と話し合い、定期的に介護計画の見直しを行っている。安定しているような利用者の場合も含め、各番館の管理者、計画作成担当者は毎月1回のミーティングで話し合い、現状に即した介護計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設クリニックや協力医療機関との連携、外出・外泊の支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。併設クリニックの回診、月1回、歯科医の往診が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り」の経験がある。重度化した場合の対応について、早期から本人、家族、医師などと話し合い、ケアの統一を図り、家族の意志を尊重した関係づくりの構築に向け努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう日常的な配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし、見守りながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、和やかな雰囲気ですりげないサポートをしている。後片付けや食器洗いなどを利用者の力を活かしながら職員と一緒にやっている。職員は同じ物を一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏季は3回、冬季に2回の入浴の支援をしている。汚染時のシャワー浴など希望があれば随時入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや庭の手入れ、地域の行事参加、遠出の外出等の楽しみごとを利用者と相談しながらやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、施設周辺の散歩、外食など、利用者の希望に沿った外出支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの外出傾向を把握して対応している。施設入り口、玄関、居室などには日中、鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住人の協力を得ながら、年2回防火訓練を定期的に実施している。近く、スプリンクラー設置完了の予定である。水害対策について検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を利用し、一人ひとりの咀嚼や嚥下能力に応じた食事が摂れるよう支援している。一日全体を通じた食事摂取量の記録はされている。		一人ひとりが一日全体で、飲水量がどの程度とれているのか、摂取状況についてもチェック表等活用し、全職員で情報を共有してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食材を刻む音、茶碗を洗う音、鍋料理の匂いなど、テーブルを挟んだキッチンから献立の匂いが漂う。限られたスペースの中で、生活感を出している。言葉かけなど配慮し居心地よい雰囲気をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、観音開きの物入れの中にきれいに片付けられている。使い慣れた日用品の持ち込みや、写真などの装飾はなく、本人らしい居室にはなっていない。	○	本人の居心地のよさに配慮して、馴染みの家具や品々の持ち込みなどその人らしい生活感のある居室になるよう工夫してほしい。